

# 特集 座談会「防災を考える」



**今**回は、防災に関わる方々にお集まりいただき、日頃の活動や震災などの体験を通して、男女共同参画の視点で感じていることについて、語っていただきました。

**司会**●防災を様々な立場から体験されたお話を伺いたいと思います。  
**大島**●東日本大震災で被害を受けた宮城県山元町で「まちづくり」に関わってきました。その経験を活かし、中学校等で防災ワークショップの手伝いをしています。



大島 裕子 さん

**椎名**●八柄町2丁目自治会長9年目です。防災マニュアルを作成して自分の防災に関する思いをまとめました。近所の方々が、災害で命を落としてほしくないからです。

**亀田**●この4月に危機管理課に配属となりました。熊本地震により足利市としては、どんな対処がベストなのかと模索しているところです。  
**澤田**●消防から出向2年目です。災害時の関係機関との連絡調整、県へ

の被害報告の他、自主防災組織の育成指導などを担当しています。  
**塚越**●警防と指揮調査を担当しており、職員教育、災害現場での指揮活動など、主に現場職員のお世話をする部署です。

**保々**●実家が熊本県の益城町です。1回目の地震後、熊本に行き本震に遭いました。地球が終わるかと思う恐さでした。揺れが止まり外に出るとすぐにまた震度6の地震があり、地面に這いつくばるのがやっとでした。前日の地割れの広がりや近所の道路の隆起を見てるとまた地震。足の悪い父や母と、このままここにはいられないと思い、実家の車で足利まで来ました。今回の地震で、近所の付き合ひの大切さを感じました。1回目の地震後、ようやく繋がった母の電話で「近所の人みんなとメッセの駐車場にいるから。」と聞き、本当に安心しました。普段離れて暮らしているのに、両親が周りの若い方々に助けられているのは本当に有りがたいと思いました。

**大島**●宮城県山元町の人口は、約1万6千人。そのうち6300人が亡くなりました。私たちは、1年後にまちづくりのお手伝いに伺ったのですが、男性が中心で会議に出席されていました。女性、高齢者、子供の目線もあつた方がいいと感じました。

**司会**●行政へ要望はありますか？  
**椎名**●中越地震での避難所では、見ず知らずの他人の中にいることがストレスだったと聞いています。顔見知りがある安心感も考慮してほしい。災害時に、一番心強いのは隣組です。自治会総会時、平時何気なく、独り暮らしを見守る隣組のパトロールを約束しています。



椎名 英夫 さん

**大島**●中学校のワークショップでは、自ら考えて行動すること、普段から備えておくことが大事と伝えていきます。災害直後の動きはどうするのか？地図、自宅の配置図などを活用して検討してもらいます。

**保々**●実家では、1日目、警察の方が、回ってきて避難を誘導してくれました。2日目、公報の音声で聞こえ安心しました。避難を拒む市内に住む一人暮らしの叔母も、警察の方が、声をかけ、避難させてくれました。行政から守られていることが実感できました。

地域包括ケアのまちづくり、コンパクトシティづくりは、地域の皆で手を繋いでいかないと進みません。支え合う互助の精神が大事です。  
**椎名**●地域のつながりは、本当に大事です。大きな地震を想定して私共自治会、つまり自主防災会で作成した、安全が確認できる「黄色い木札」は、地震が収まってから玄関に表示するものです。それを見ると、自分が元気でいることが安否を確認に来てくれる人や隣組の人にもすぐ分かります。自治会長、民生委員だけ所持する世帯数を確認できる名簿も作成しました。

**司会**●行政は、どのような対応を？  
**塚越**●条件によっては、自宅待機の指示をする場合もあります。置かれた状況によって臨機応変に対応できるように指導しています。特に豪雨災害などでは、避難所へ向かうのが正解とも言えません。

**司会**●大島さんは、東日本大震災を女性目線でどう見られましたか？  
**大島**●災害復興住宅を造って、孤独死にならないよう、避難所に居ても孤独にしないように、個々の居場所を作る提案をしてきました。大学生などが、なるべくお年寄りに寄り添えるようにしてもらいました。

**司会**●足利は、過去に「カスリーン台風」による大きな被害がありました。で水かさが増すと不安になります。避難勧告は、綿密に出していただけなのでしょうか？  
**塚越**●市長が、避難勧告を発令します。職員が、避難するよう指示に回ります。過去に起きた小俣の森林火災では、一軒一軒戸別に回りました。

**大島**●渡良瀬川を守るために水門を閉じると流れ込むはずだった川が、増水して水害が起きるのではないかと心配があるのですが、どうでしょうか？自動的に閉じる場所もあるそうです。

**椎名**●私も、「越水」による被害は、気になっています。  
**亀田**●足利市では「自主防災組織」が222町内、すべてに整備されています。災害時には官民で協力して被害を最小限にしておく取り組みをしています。

**【参集者】**  
八柄町2丁目自主防災会会長  
(自治会長) 椎名英夫さん  
防災ボランティア 大島裕子さん  
熊本地震体験者 保々悦子さん  
市危機管理課 亀田明課長  
市危機管理課 澤田純臣主任  
市消防警防指揮課 塚越孝一課長

た。避難するときの心がけなどを聞かせて下さい。  
**保々**●母は、普段から貴重品や薬等を1つのバッグにまとめていたので、それを持って逃げて来ました。でも、洋服や食料の準備はしていませんでした。普段の準備の大切さを感じました。



保々 悦子 さん

**司会**●災害時に配慮した防災用品は、大事な物ですね。

**澤田**●持ち出し袋の準備。各家庭で必要なものを用意しておくのは、必須です。また、夏と冬では、持ち出し袋の中身が異なる部分もありますので、日頃から、家族で話し合っ準備しておくことが大事ですね。  
**司会**●防災訓練は、各町内で行っているのでしょうか？

**椎名**●私達の町内では、多種の内容の訓練を実施しています。各家庭の災害時に道具を所持している世帯のマップを作り、全戸に配布しました。道具を持ち寄って、自分たちで救出活動をするためです。車のジャッキ

は便利ですよ。タンカも作りました。消防が到着する前に、何が出来るかを検討しながら訓練に励んでいます。最近では、うれしいことに子供の参加が増えていきます。次世代のリーダーが見えますね。  
**司会**●被災後の、人と人のトラブルを耳にしましたが、どんなことが？  
**大島**●道路1本を隔てた近隣同士で、補償を巡ってやっかみがあったと聞きました。また、外見では判断できない「発達障害」などは、周囲の理解が得られず、親子で居たたまれない思いをしていたことを後で知りました。  
**保々**●被災の現場では、理解を得ることは、なかなか難しいと思います。被災者の多くが、自分たちのことだけで精一杯で、心に余裕がない状態ですから。このように陰で辛い思いをされた方も多いと思います。  
**大島**●熊本では、中高生が積極的にボランティアをしているようです。  
**司会**●人を振り分けるスペース作りは、なかなか難しいですね。  
**澤田**●HUG（ハグ）という避難所の運営を想定した訓練ゲームがあります。高齢者や乳幼児、病人、外国籍の人など、多種多様な避難者をどう区分して対処していくか考えるものとなっています。昨年度から職員研修として取り入れられました。